

**研究主題：一人一人のよさを捉え育む授業**

**今日の研修のねらい：**

- ・子供のよさを捉える力を高める。
- ・子供が友達のよさや自分のよさを自覚することができる「くらしのたしかめ」について考える。

**内容：**3年生「くらしのたしかめ」での発言から子供のよさを捉え（15分）、交流する（15分）。  
教師が捉えた子供のよさについて、子供が自覚することができる板書について考え（10分）、話し合う。（10分）最後に全体で気付いたことを共有する。（各部会から3分以内）

**補足：**「くらしのたしかめ」や「授業」における子供の発言から、その子のくらし、見方、考え方、物事の捉え方、向き合い方、さらには生き方が垣間見える。それは、その子ならではのよさとも言い換えることができる。

3年生「くらしのたしかめ」の発言から、今問題にしている事柄にどう向き合い、乗り越えようとしているのかを、一人一人の発言に注目して捉えてみたい。

今後はさらに、教師がよさを捉えることにとどまらず、そのよさを本人や、周囲の子供に自覚させることまで目指したい。そのための板書について考えたい。

**1. 一人一人の発言からよさを捉える・子供がよさを自覚できるように**

12月7日 くらしのたしかめ（3年）（F児は遅刻のため不在）

T：どんなクッションがいい？  
A児：かたいのじゃなくて、**やわらかい**クッションがいい。  
まだありませんか。Bさんはありませんか。  
B児：**やわらかい**と気持ちがいいから。  
C児：洗う前に座ってみると、かたくて椅子のように感じたからです。  
D児：**やわらかい**クッションがいいと思った。洗う前だと気持ちよくないし、クッションの方がいい。  
A児：みなさんは、やわらかいクッションがいいということですか。  
B児：**いっぱいあつめなきゃいけない**。  
T：完成ですか？  
みんなはどれくらいまで集めようとしているの？  
A児：このままじゃダメ。**もっと葉っぱ集めなきゃ**。**でも、落ちてこない**。

やわらかいクッションにしたい

集めなきゃ。でも、木にはもう葉っぱがない！！

理想と現実の間  
で…。

「やわらかいクッションにしたい」という共通の願いに対し、そのためには葉っぱを集めなければいけないけれど、もう葉っぱは木にほとんど残っていないという現実が立ちはだかります。今問題にしている事柄にどう向き合い、乗り越えようとしているのか、どうやって納得解を見付け出そうとしているのか。一人一人の発言に注目して子供のよさを捉えてみましょう。吹き出しに、捉えたよさを記入しましょう。

(記入15分)

B 児	: 残りの葉っぱ。あれ。 (教室後方の落ち葉の袋を指す。)	
C 児	: (前方にもってくる)	
T E 児	: このくらい、いけそう? : だいたいいける。 新聞とか入れれば。	
C 児	: いやだ。葉っぱだけでつくりたい。	
D 児	: ちょうどいいんじゃない? だって座ったら～。	
T A 児	: やってみて。 : (座ってみせる)	
T A 児	: (座ったら) 後ろに行くから、これでいいってこと? : みんなが、まんぱんいいと思うならしたいけど、もう はっぱないから。まんぱんじゃなくても仕方ない。	
T	: 洗うの大変なんだよね。 (C・D・E 児、うなずく) : でも冬だから寒いね。( 〃 ) : でも洗うんだよね。( 〃 )	
T	: E さん、人寝れるくらいってことは、こういうこ とかと。(大きなクッションに寝ている写真を示す)	
B 児・C 児	: でかすぎだよ。	
D 児	: 寝れるやつだと葉っぱ足りんけど、丸いやつならいい んじゃない?	

B 児	: どうやって丸くするん?そのままなら四角だよ。	
A 児	: Dさんといっしょで(もう)多いし、座るだけならできるから。	
T	: 形に意味あるの?	
D 児	: ちいさくても寝るだけなら、形は関係ない。 小さい四角でもできるから、どっちでも。丸にするのが無理なら、四角でもいい。	
T	: ってことは、丸に挑戦したい?丸に挑戦して、できなかったら四角でもいいということ?	
D 児	: うん。	

↓

交流 15 分

捉えたよさが位置付く板書について考える【別紙】  
(自分だったらどの言葉をどのように位置付けるか、書いてみましょう。)(記入 10 分)

↓

交流 10 分

## 2. 今後の「くらしのたしかめ」テーマ設定について

2 学期までの「くらしのたしかめ」では、主に以下の 1～3 のようにテーマが設定されていた。

1. 学級の課題、問題等の中から教師がキーワードを提示  
(例: 2 学期を振り返って、〇年生として、もうすぐ〇年生 など)
2. 子供がくらしの中で気になったことから、話題を提示  
(メダカの様子が…、こんなものを見つけたのだけど など)
3. 授業での取り組みを振り返って  
(体育の～を振り返って、図工の作品で～ など)

→ 1 の段階から、2・3 の段階へ進めたい。

なるべく子供の気付きや思いから話題が提供されるのがよいと考える。子供から出された話題から、教師は臨機応変にねらいを描き、ファシリテーターとなる。そのような「くらしのたしかめ」に向かっていきたい。